

昭和十四年一月

歐洲に於ける防共

—反ソの組織と活動—

1362

## 歐洲に於ける防共

— 反ソの組織と活動 —

### 一、總論

各國には防共團體、防共有志が各自の國內で活動してゐる、此等の活動は既に十數年以前から存在し最近益々進展しつつある。此等の團體及び有志の或者はジュネーヴに存在する第三インターナショナル反對國際聯合會に加盟し相連絡してゐる。此聯合會は、加盟國の團體及び有志が各自國に於て、會議を開いたり、調査をしたり、その結果を發表したり、また國際的な宣傳をなしたりして相當有力の反共運動を組織してゐる。

國內防共運動の團體としては先づ獨逸の反共協會を第一とすべく其規模の大、他に比するものはない。獨逸は近き將來に於て世界反共大會組織の準備中である。

第三インターナショナルの人民戰線工作の巧妙さを一瞥することは防共活動の國內的國際的強化の必要を認識する上に必要であらう。モスクワは世界各國に於て共產黨と社會黨との共同戰線を工作すると共に、一方、社會生活の内部にまで喰ひ入つて之を自己陣營の防禦に利用してゐる。彼等が如何に人道方面の諸運動、平和運動等に侵入し之を惡用せんとしつゝあるかを看過してはならない。

ソ聯に反對する勢力は各方面に現はれてゐるが、其中大露西亞主義を不倶戴天の敵とし、反ソ革命を目的として

歐洲に於ける防共

る勢力のあることを注意しなければならぬ。即ちソ聯の支配下に壓迫されてゐる諸民族の反ソ革命政府の活動である。ソ聯内のみに於ても三千五百万の人口を有するウクライナ民族を初めとし合計八千萬のその他の民族はモスコの共産政治の暴政の下に置かれてゐる。此等の亡命政府は今日も尙政府と名乗り、歐洲諸國に於て待機してゐる。彼等の活動は反ソたると同時に反共であること云ふまでもない。

## 二、第三インターナショナル反對運動

ジュネーヴには十四年間第三インターナショナル反對國際聯合會(一名反共國際聯合會)が存在し根氣よく活動を續けて來た。日、獨、伊、英、佛、米、白、洪、羅、波蘭、西、勃、希、芬、智、瑞、典、瑞、西、ユーゴスラヴィヤ、アルゼンチン、ブラジル、ポルトガル、濠洲、澳(併合前)、露(避難民側)等約二十五ヶ國に於ける防共團體又は有志が國內反共運動を代表した此國際聯合會に加盟し、毎年平均一回ジュネーヴに集合して互に其國內の赤化事情並に防共活動を報告し、會議は此等各代表の報告等を基礎として反共反ソの立場より現在の國際情勢並に防共手段に關する結論を下すのである。

聯合會の會長は瑞西人オーベル氏である。世界大戰直後モスコは瑞西を歐洲赤化の中心となすべく活動を開始し、此山間の小國をボルシェヴィズムの出店とする計畫に着手したのである。赤化の總同盟罷業が行はれた。然し傳統保守の精神に強い瑞西の山男等は勇敢に此の危險に對し祖國を防禦したのである。此時以來決然防共事業に一身を捧げんとして立つたのがオーベル氏である。聯合會の事業中、會議は極めて小さい部分であり、繼續的調査、情報の發

表配付、各國防共團體及び有志との連絡、其他各方面に對する宣傳及び工作が主たるものである。ソ聯内外に於て發行される新聞、雜誌及び著書等に基くソ聯事情、赤化情況、防共政策に關する調査は云ふまでもなく、其他特別の諜報に基く調査にも相當手が延び有益な資料を發行してゐる。其他、機に應じ説明書又は檄を發し、各當局又は國際會議等に注意を與へる等實際的活躍に努力してゐる。

例へば、ソ聯の國際聯盟加盟問題が起つた際、之に反對する調書を各方面に配付し、ソ聯加盟反對運動の急先鋒となつて活動した。又、滿洲事變及び支那事變に際しては夫々適當なる調書を發行配付し、事變の背後に第三インターナショナルの魔手のあることを世界の民衆に知らしむるのに努力した。其他人民戦線工作が如何に社會の各部門に現はれ、特に平和運動の方面等に侵入しつゝあるかに關した調書を發表し、民衆の認識を啓發する事等にも力を注いでゐる。

又本聯合會は、ソ聯の宗教破壊に對抗し、ソ聯の宗教破壊の實況を民衆に知らしめ以て此方面より反共陣を擴充せんと目的より過去五年間「宗教國際委員會」を組織し各國防共團體、有志、宗教關係者等と連結し、會議を開き、調書を發行し、頻繁に展覽會を開催して民衆に對しポリシエヴィズムの宗教破壊情況を認識せしむるため努力してゐる。ポリシエヴィズムが如何に暴虐なるものであるかと云ふことは、歐洲に於ては宗教方面の事實説明により有效に民衆に之を認識せしめ得るのである。

更に、反共の味方は之を學究方面にも増加せしめなければならぬ。何故に理論上ポリシエヴィズムが間違つてゐるか云ふ點を明にし、之を反駁し、且つ之に代り得る積極的な理論を示さなければならぬ。如何なる道を選べば人

類は幸福になるや、共存共榮の爲めには如何なる奉公の精神が必要なりやと云ふ事を深く研究し、確信を以て世を導かねばならぬ——と云ふ考へから、此の國際聯合會は、數年前より反共國際學院を組織した。つまり、之は學究的方面の反共組織である。反共國際聯合會は、此學院の名の下に國際會議を開き、講演會を開き、調書を發表してゐる。

從來各國に於ける主なる反共團體は、此在壽府の聯合會に加盟してゐるが、其他之に加盟してゐない反共團體もあるわけである。又此聯合會には、團體の名に於て加盟せずして個人の名に於て加盟してゐるものもある。加盟團體中、最も有力なるは云ふまでもなく獨逸の反共協會である。

獨逸の反共協會は、之を「アンチ・コミンテルン」と云ふ。其規模の大、殆んど大官廳の觀がある。ベルリンの中心目抜き場所に大きな建物を占領し、五十の室に六七十人の職員が働いてゐる。之は宣傳省の出店のやうなものであるが、表面は一の協會である。協會の事務分擔は十四部に分れてゐる。第一部は外國の資料を集め且つ外國に對して宣傳する仕事の部であつて、世界を三分して分擔してゐる。(イ)は、アングロサクソン、アジャ及び北米合衆國の係り、(ロ)は、ラテン系の諸國、スカンデナヴィヤ諸國及び南米諸國の係り、(ハ)は、バルカン地方、バルト地方及び波蘭の係りである。各係りは、夫々受持の地方と連絡し其地方に適當な言語を以て情報宣傳紙を發行配付してゐる。

第二部は、新聞宣傳部であり、情報配付を主なる任務としてゐる。相當に面白い情報の種があるので獨逸の電報通信社員が此部に出張してゐる。又映畫及びラヂオの利用も此部の擔任である。第三部は、文書部であつてソ聯及び共產主義並に防共活動に關する資料を蒐集する役割を演じてゐる。第四部は、圖書部であり、共產主義及び反共に關す

る殆んど全部の文獻を網羅する由で、著書二萬二千部、六百種の小冊子、四百種のソ聯の小冊子、二十八の定期刊行物、三十種のソ聯の日刊新聞を具へてゐる。

第五部は、宗教委員會の部で、コミンテルンの宗教破壊を民衆に知らしめたり、對抗策を考究したりする係りであり、獨逸の各宗教團體及び外國に於ける本件運動と連絡してゐる。第六部は、國內に對する教育を擔任する係りである。

新獨逸は反共を國策の一大骨子として立つた國であり、宣傳省には反共課が設置せられ、政府の綿密なる組織を以て防共徹底して居るのみならず、國內には共產主義の危険根絶せる如き外觀を呈してゐるに拘らず、強大なる防共協會存在し、而も此協會内第六部の教育係りは用意周到なる宣傳資料を作つて、一般民衆の啓發に力を注いでゐる。

即ち、殆んど毎日各種工場、會社等に對して宣傳紙を配布してゐるが、その資料は工場の種類、企業の種類に依つて内容及び書き振りを異にすると云ふ位に細心の注意を拂つて宣傳技術の手腕を發揮してゐる。

第七部は日本係りの部である。日本に關する資料を集め日本關係事項の調査、連絡に當つてゐる。

第八部は少年青年部、第九部は法律部である。又第十部は、ソ聯より歸國せし獨逸人に關する調査の部である。

戦後十年間に於て獨逸の技師及び職工一萬數千人がソ聯に入國したが次第に歸國し新獨逸となつて殆んど全部歸つて來た。そして此等の人々の經驗の記録は、ソ聯に關する貴重なる情報並に面白い物語資料となつてゐる。此等の記録により多くの小説が出てゐる。第十一部は婦人問題、第十二部はポルシェヴィズムとユダヤ人との關係研究の係り、第十三部は反共展覽會係り、第十四部は出版部である。

上述の如く、反共運動の國際連絡は、壽府の反共國際聯合會によりなされてゐるが、新獨逸は猛烈な勢を以て防共

活動を開始し、國內のみならず國際的にも大いに進出せんと努力してゐる。

目下反共世界大會の案がある。適當の機會をとらへ近き將來に於て(多分一九三九年)反共大會を組織し全世界的に防共の聲を擧げようと云ふ計畫である。

防共陣を強めんとせば多くの國々を防共陣に引き入れる必要がある。これがためには反共運動を國際的に強くすることに力を與へねばならぬ。各國の反共運動を支持應援し、國際聯合又は結合の組織及び活動に協力せねばならぬ、單に情報を取ると云ふが如き目前の功利主義から國際的聯合の仕事等を觀察するのは淺見であつて、寧ろ自ら之を養ひ、之を發達せしめ、指導して以て大なる目的を達成せんとする覺悟が望ましい次第である。

我國に於ては一九三三年「國際思想研究會」といふ名を以て反共協會が設置せられ、日本に於ける防共運動センターとして在壽府の國際反共聯合會に加盟し協力して來た。現在に於ては此他に一二の民間防共團體も成立し、其他各關係官廳間に於ては防共調査を夫々開始してゐるが、官廳間の防共事務關係の調査統一整理の問題は別としても民間の反共協會は之を統一し、獨逸の協會のせめて半分位の規模を與へて活動せしむるやうにしたいものである。

日獨伊防共協定の存立する今日に於て我國の民間に於ける防共協會の組織の貧弱さは驚くばかりである。これは有識者のみならず國民一般が防共活動の必要を認識せぬ結果である。日本は今や支那に於ても防共の大問題に面接してゐるのである。防共問題は外交的及び軍事的方面のみ止まるものではない、內的にひそむ大なる教育宣傳の問題である。かゝる故に政府萬能の新獨逸さへ強大な防共協會を作つて教育宣傳調査を大々的にやらしてゐるわけである。

### 三、各國の防共政策

現在世界各國中共産黨を禁止してゐる國名は左の如くである。

ポルトガル、國民派西班牙、伊、獨、アルバニヤ、芬蘭（一九三三年禁止）、エストニア（一九三〇年）、レットニー、ハンガリヤ（一九一九年）、ユーゴスラヴィヤ（一九二九年）、洪牙利（一九二五年）、希臘（一九三六年）、トルコ、波蘭、羅馬（一九二五年）、瑞西に於ては二十四州の中四州だけ一九三七年に共産黨を禁止し、其他の州に於ても目下共産黨禁止手續進行中である。

南米に於てはパラグアイは一九三六年に、ボリヴィヤ、ブラジル、チリの三國は、一九三七年に禁止を斷行し、其他キユーバ、ペルー、ウルグアイに於ても共産黨は禁止された。アルゼンチンに於ては或州に於て禁止法が通過してゐる。獨逸合邦前の獨逸に於ても禁止されてゐた。

共産黨の許可されてゐる國はソ聯、蔣政權の支那及び赤色西班牙の他、英、佛、和蘭、白耳義、ルクセンブルグ、合衆國、墨國、パナマ、コロンビヤ、エクアドル等であり、ズデーテン地方獨逸合併前のチエツコ國等である。

ポルトガルに於ては、凡ての政黨は禁止されてゐるので共産黨は當然無いわけである。一九三六年には共産主義者は軍艦内に騒動を起させた。以來官吏は反共宣誓をする義務を負ふことになつた。即ち「一九三五年に確立せられた政治秩序に絶對的に服し、共産主義排撃行動に協力す」といふ意味を誓ふのである。白耳義及び和蘭に於ては共産黨は未だ禁止せられてゐないが、共産黨代議士數は少數であつて、且つ革命的行動は一般に嚴禁されてゐる。ルクセ

歐洲に於ける防共



ンブルグに於ては、共產黨禁止には未だ成功してゐないが、漸次禁止の勢にある。即ち、同議會は一九三七年三月、共產黨禁止法案を可決し一九三七年六月之を人民投票に付した。然るに投票の結果、七萬六百に對する六萬七千七百といふ少差によつて敗北したのである。英國に於ても、共產黨は許可されてゐるが政府をして共產黨の宣傳を掣肘せしめ得る法規が存在してゐる。英國の諸植民地に於ける狀況は大體英本國と同一であるが、植民地に於ける共產黨は、本國よりも一層嚴重に監視せられてゐる。土耳其は對ソ外交關係を通常の状態に保ちつゝ共產黨は之を禁止してゐる。

防共陣を大觀すると、一九二五年と一九三五年との間に大なる進歩あり、又一九三六、七年に於て顯著なる成績を示してゐる。ソ聯隣接諸國は早くより危險を痛感し、共產黨を禁じてゐたが（芬蘭は一九三三年、洪國は一九一九年、羅馬尼は一九一五年、勃牙利は一九二五年）獨逸を始め遠隔方面に於ては、共產黨が跋扈してゐた。然るに其後次第に赤色歐洲の地圖は其色を變化して來た。又一九三七年以來南米に於ける防共陣は、すばらしく進展した。

共產黨が許容せられてゐるや否やの點から今日の國際關係を觀察するのは無益ではない。英佛米は容共國である。此等の國に於ては共產黨員のみならず民主黨系の者までモスクワの巧妙なる人民戰線式宣傳に乗ぜられて日獨伊をファシストとして憎み、ファシズム即ち戰爭と云ふ惡宣傳に毒されてゐる。従つて日英、日佛の國際關係などは實は昔のやうな單純な國家と國家との對立ではなく、日本對赤色分子の關係が多量に含まれてゐるのである。

#### 四、人民戰線運動

モスクワが如何に巧に人民戰線の方法によつて赤化の實を擧げんとしたかといふことは、日本においても之を経験

し得たところであるが、世界における人民戦線工作の体制を検討することは、防共運動強化の必要を認識する上に最も必要なことである。

レーニン革命の初期におけるモスクワは、暴力を以て世界の革命を遂行せんと叫んだのである。世界に向つてプロレタリアの獨裁政治を宣傳したソヴィエトの統制は、各國におけるプロレタリアの獨裁を援助すべしと約束したのである。實はボルシェヴィズムの世界觀は大帝國主義として出現したのである。換言すれば、第一期ボルシェヴィズムの宣傳は猛烈な攻勢であつた。ブルジョアを征服せよ、武力を以て資本主義を打倒せよといふのであつた。

然るにこの聲に大衆はついて來なかつた。コミンテルンの指導部は、この事實を認識せざるを得なかつたのである。民衆は躊躇する。そこで、この正面からの攻勢を一變するの方針を決定したが、千九百三十五年の第七回コミンテルン大會である。

當時の共產主義理論の大將はデイミトロフで彼は第七回コミンテルン大會で人民戦線工作の新作戦を宣言したのである。曰く

「共產主義者は最早自分で戦ふのを止めなければならぬ。社會黨系のもの、無政府主義者、無所屬の連中と共同しなければならぬ。民主主義系のものも引入れねばならぬ。彼等と表面協力して共同の敵たるファシズムに對抗しなければならぬ。ファシズムに對抗するためには世界各國の社會の各部門における諸種の協會や團體と共同戦線を張らねばならぬ。彼等と協力しなければならぬ。傳統主義の團體、民主主義の團體にも近寄りこれらの内部に入り込み隠忍して彼等の内部において勢力を得、これを利用しなければならぬ。各種協力の内部に侵入し

歐洲に於ける防共

一一三

内部に力を植えてその指導的立場に立つて即ち敵の心の中に侵入して勝利を得なければならぬ。」

といふ戦術を聲明したのである。各國の共産黨は、忠實にこのモスクワの命令に従つたのである。政治的方面においては忽ち社會黨との共同戦線工作として現はれ、それは各國において實現された。共産黨と社會黨との合同、または共同行動の約束となつて現はれたのである。また、労働組合の方面のみならず社會の各方面の協會に赤色分子がどしどし入り込んだのである。目的の前には手段を選ばず、如何なる欺瞞的方法を用ひても自分の勢力を各方面に侵入せしむればいゝといふのである。昨日までは敵として罵倒してゐたものに對し、今日は平氣で媚びを呈するのである。

この欺瞞政策が外交的に現はれたのが、ソ聯の國際聯盟加入である。昨日まで世界プロレタリアに對し資本主義國家は戦争同盟であると罵倒し、之程大なる敵はないとまで嘲つてゐた國際聯盟の門におめおめと頭をさげて加入許可を乞うて來たのである。世界は冷やかな笑みを以てこの哀れな態度を嗤つた、然しドイツ恐しさの悪夢に襲はれてゐるフランスは、ドイツ牽制の具となれば何物にも絶るのであるから、このソ聯の加入を援助し、瑞西、ポーランドなどの小國の少數の反對投票を押しつけて、ソ聯を國際聯盟の一員としてしまつた。この瞬間に、國際聯盟は崩壊し始めたのである。國際聯盟規約は、紳士國をその締盟國として前提してゐるのである。如何に最負目に見てもソ聯は紳士國ではない。國家の本質及びその政策から見て、聯盟國たる資格を全然缺いてゐるのである。この根本條件に對しフランスは目をつぶつたのである。

國際聯盟加入によつてソ聯は各聯盟國內において大手を振つて人民戦線工作をなし得る基礎を得た。それで一九三

五年にモスクワにおいて堂々と人民戦線を宣言したのである。

ソ聯共産黨機關紙「プラウダ」は、一九三五年八月六日の紙上に於て各國に於ける人民戦線政府組織の必要を説いた。

「人民戦線政府はファシズムに對抗するに有效である。民主主義のカトリック教徒、その他すべての勤勞者はファシズムの獨裁に對抗するために互に協力する必要を認識すべし。」

と説いたのである。モスクワに取つてはファシズムといふ念佛が發明されたので大いに助かつたわけである。コミンテルンはその作戦をこれに集中することになつた。ファシズムの危険を叫んでこれを人類共同の敵と宣傳し各方面の分子をファシズム對抗陣に引入れやうとしたのである。ファシズム即ち專制といふ印象を與へることに努力した。共産黨は、自分の世界觀のみを以ては闘ひを経験し得なくなつたのである。正々堂々と自分の理論を説いて進み得なくなつたのである。即ち自分で敗北を認識したのである。併し裏面からの赤化は人民戦線工作によつて急速に進んだ。

##### 五、各國に於ける人民戦線工作

人民戦線工作の政治的方面を各國別に一瞥すると、スペインに於ては共産黨從來の宣傳方針を以て、暴力革命、工場及び兵士のソヴェト組織、勞働大衆の武装をスローガンとしてゐたが、人民戦線の方針となつてからは急に調子を變へて、社會主義者、無政府主義者及びラヂカリスト分子に手を伸ばし、一九三五年に既に人民戦線を作り、一九三

歐洲に於ける防共

六年二月に政權を握つた、一九三六年二月から六ヶ月間に赤色の手がなし遂げた事業を統計的に見れば總同盟罷業數一一三、その他諸罷業二二八、放火二八四、寺院破壊一七一、暗殺三〇三件と云ふ成績である。フランコ將軍が、かくて母國の危険に直面して敢然と立ち上つたのは當然である。

フランコ將軍起つて以來マドリッド政府は、全然モスクワの支配となつた。一九三八年八月の初めにスペインの社會黨は共產黨と合併して「プロレタリア統一黨」を組織したのである。

かくしてスペインはモスクワの政治的武力的革命の本舞臺となつた。

フランスにおいても人民戦線工作は急速に進展し、先づ共產黨、社會黨及び急進社會黨は「人民集會」といふ形式において共同戦線に對し「共同行動規約」なるものを採擇した。一九三六年の選挙においては、人民戦線側は議會の半數を獲得した、一九三五年十月から一九三七年九月に至るまで二年間の成績をみるに、同盟罷業四〇一一、工場占領一三七〇、これらの行動に参加した労働者數は五十二萬といふ數字を示してゐる。

フランスがマドリッドを應援しドイツを敵視して反日の態度に出るのは當然である。佛國にては共產黨は黨として社會黨と正式合併するのに成功しなかつた。行動は共同し得たが黨の合併は未了であつた。

英國においては共產黨は労働黨との合併に努力したが成功しなかつた。労働黨の左翼は分離して獨立労働黨を組織し共產黨と共同戦線を作つた。米大陸における情勢に關しては一九三八年六月第十回米國共產黨大會の聲明中左の報告を摘要することが出来る、曰く

アメリカ合衆國においてはルーズベルト行政を繞つて左翼戦線は發達しつゝあり、吾人の諸團體は進展しつゝあ

る。カナダにおいては共産黨は強力になりつゝある。メキシコにおいてはカルデナス政府は益々人民戦線に依存しつゝある。而してこの人民戦線中であつて我が黨は徹底的努力を示しつゝある。チリーにおいては人民戦線は急進黨、社會黨、共産黨、サンチカ聯合を網羅して増大しつゝある。吾人は今や實力を有するに至れり。次回大統領は吾人がこれを選ぶべきなり。キューバにおいては人民戦線は新しく勢力を得つゝありと。また防共政策の諸國に關しては次の如く負け惜みを云つてゐる。

アルゼンチンにおいては現政府の政策に拘らず人民戦線の結合固し。ブラジルにおける吾人の退却は一時的なるのみ。ウルグワイ、ベネズエラ、コロンビア、エクアドル、ペルー、ポルトガルなどにおける人民戦線運動はメキシコにおける成功により大いに刺戟されたりと。

#### 六、社會各部門へ侵入の人戦工作

人民戦線の工作は政治的方面に限られず社會の各部門に侵入したのであつて寧ろ此の點の方が危険であり、防共陣は此の方面を十分認識し、之が對抗策を講じなければならぬ。

新しい作戦は人間の感情を利用することに重點を置いた。即ち平和を愛好する心、自由を愛する心、災害の犠牲に對する同情と云つた方面を自己の勢力擴大に利用し始めたのである。現在の各種協會に侵入すると同時に新しく諸種の協會設立に努力し之等の協會内に於て指揮權を握り終局に於て之を世界革命に利用せんとするのである。

一九三八年に行はれた人民戦線勢力下の世界大會は次のやうな種類であつた。(一)自由思想家(無宗教家)の世界大會

歐洲に於ける防共

(二)ソ聯の友の會議、(三)平和及自由の會議、(四)少青年世界大會、(五)自由の義勇兵會議、(六)少年合宿等である。

人民戦線の宣傳策はファシストに對抗しデモクラシーを防護するといふ看板をかゝげた。ボルシェヴィズムの第一期に於てはデモクラシーは根本的に悪いものとされてゐたのだが、人民戦線工作となつてからはいつの間にかデモクラシーを守るといふことになつた。のみならずソ聯といふ國はデモクラシーの國であるといふやうな印象を歐米に對して與へるやうに努力し出したのである。民衆は無邪氣なもので歐米に於てはソ聯はデモクラシーを守つてファシズムに對して防衛の闘ひをなすものであるが如く考へる人々が多くなつた。

即ち各國に於て「デモクラシー防衛」とか「ファシズム反對」とかいふ名のつく協會を組織するのに力を注ぎ、僞購に終始する宣傳を始めたのである。曰く「デモクラシーのスペインを援助せよ」とか、「スペインよりファシズムを追ひ出せ」とか叫び、フランスに於ては「反ファシスト委員會」を組織し、米國では「平和及デモクラシー米國委員會」を組織するに成功した。昨年巴里に於ては「自由の爲の義勇兵會議」を開催し大デモンストレーションをやつたのである。「自由」といふ聲のみならず平和といふ叫びを取入れ。「平和と自由」といふ旗を立て、民衆を僞購する工作は頗る成功してゐる。「戦争及ファシズム反對」の運動を各國に於て強化し、「平和及自由の婦人聯盟」といつたやうなものも赤の手によつて組織された。本年六月開催された「平和と自由」の大會に於ては出席者千四百四十人中九百人は共産主義者、他の二百四十人は共産系労働組合の連中であつた。之を以て見ても共産黨が今日如何に平和といふ看板を利用してゐるかどうかはれる。

又日本に於ては文藝方面に赤化の手が延びたが、モスコイは世界の一般知識階級のひき入れに苦心し、各地に革命

文士聯盟を組織せしめた。又各國に於て「ソ聯友の會」を組織せしめた。フランスに於ける此の會は中々有力で機關雜誌は「今日のロシア」といふ名をつけてをり、發行部數十萬五千である。巴里に於ては目下「ソ聯友の會」館建築費の寄附募集中の由である。

人道的看板、又は犠牲者同情の利用としては「ファシズム犠牲者釋放委員會」「反ユダヤ人及人種主義反對聯盟」「小兒擁護協會」「西國救援會」などを擧げることが出来る。

スポーツ界も此の工作から免れてゐない。共産黨はスポーツ・インターナショナルを組織し之を宣傳の機會に利用してゐる。オリンピックが東京に開催されることに關し、各方面に反對の聲があつたが之にも赤手の活動があつたのである。

甚だしきに至つては宗教方面に對する秋波である。ボルシェヴィズム自身は、宗教破壊を一大目的となし、露國に於て西國に於て徹底的に宗教破壊の暴虐をなし、各國に於て宗教絶滅の宣傳をしながら現存の宗教界の勢力を自己陣營に利用せんとし、カトリック方面が獨逸等に於て多少問題となつたのに乘じて之が利用に手を延ばしてゐる。自由信條主義者方面には大いに勢力を植付けてゐる。共産黨の「プロレタリア自由信條家インターナショナル」と自由信條家聯合とは一九三六年プラグにて合同し「自由信條家世界聯合」を組織した。

### 七、平和運動への侵入

人民戦線作戦の中で最も皮肉なのは平和運動への侵入である。特に私の關係の深い二つの組織について一言した

歐洲に於ける防共



5. 一は、青少年世界平和大會で、その二は、世界平和集合集會又は大會の意である。

青少年世界平和大會を生んだのは國際聯盟協會國際聯合會である。即ち私が日本の國際協會(以前の國際聯盟協會)を代表してこの十五ヶ年間連絡に當つてゐた組織である。その教育及宣傳委員會に於て既に一九三六年の二三年前から青少年方面への平和教育の手段として世界大會を開いたらよからうとの案はあつたのであり、従つて始めはモスコの工作ではなかつた。然しこの案があることを知つたモスクワは遂に上手に之に侵入し、大會には赤色青年を參加せしめることに努力し、ソ聯からも青年代表を送つた。會議中ソ聯の青年と歐洲の右黨の青年と大いに、やりあつたのである。

この第一回大會は一九三六年ジュネーヴで開催したが、第二回は本年ニューヨークで開催された。米國からは五十名の青年共産黨が出席し、フランスからはフランス共産青年同盟書記長が出席した。第三回の大會に對してはモスコは學生を自分の方に取り入れる案に力を集中させるとのことである。この青少年平和大會は第一回大會後、繼續事務所をジュネーヴに置いて獨立した一國際聯合の組織として活動してゐる。之を生み之を後見してゐるところの國際聯盟協會國際聯合會及び青少年大會事務所に働く書記等は無邪氣な平和主義者であるが、モスコはこの大會を自分の方に利用せんと努力しかなり成功してゐるのである。

第二の世界平和集合の方も國際聯盟協會聯合會關係の連中が生んだものである。つまり世界大戰後の歐洲平和運動の有力者は聯盟協會關係者となつてゐるのであるから、凡て此等の運動には同じ顔ぶれが關與するのは當然である。新獨逸が出てから歐洲平和の危険を感得するものが多くなり、どうにかして再び平和の大聲を擧げる必要ありとの純な氣持

から大會の案が出たのであるが、早くも之を利用し成立の始めから赤の分子の介入に努力したのはモスクワである。

大會は一九三六年に開かれたのであるが、之が開催を宣言したところの檄文の署名者には共産黨系のもものが相當額を列べた。各國に於て大會準備の諸集會が開かれ合計何千回と云ふ講演會が開かれ、労働團體が頗る活躍したのである。チエツコ國に於ては一番盛んにこの前景氣のお祭り騒があつたことから見て如何にモスクワが力を入れたかがわかる。大會はジュネーヴで開きたいと云ふ申出があつたが、瑞西政府は大會の赤色化を知つて之を拒絶した爲め已むを得ずブラツセルで開くことになつた。出席代表數千名の大デモンストレーションであつた。日獨伊は不参加。セルが會長に祭り上げられたが大會は共産黨の歌を歌つたのでセル等は頗る迷惑顔をしてゐた。共産黨員も多數出席した。大會は豫定通り繼續事務局を設けることを決議し、事務所をジュネーヴに置いた國際聯盟の舊館内に數室を占領し事務局を相當置くことになつた。金がなければ出来ない仕事である。此繼續團體の會員は各國に於ける加盟國體即ち會員は個人ではなく團體である。

そこで上述の國際聯盟協會國際聯合にも加入してくれと言つて來た。即ちセルを會長とする英國の國際聯盟協會をして提案せしめて來たのである。そして右の平和集合の方も聯盟協會聯合會に一員として加入しよう、換言せば相互加盟の關係に立たうと云ふのである。私は最後まで反對したが一九三七年夏の聯合會總會で右の案が可決せられてしまつた。要するに國際聯盟協會聯合會が赤い平和集合の勢力にまるめられたことになつたのである。

此平和集合はモスクワが最も重要視してゐるもの二つであり、其後の行動は豫想通り反ファシズム、反日獨伊に集中されて、遂に本年二月ロンドンで反日ポイコット世界大會を開催したのである。そこで我國際協會は國際聯盟な

歐洲に於ける防共

る國際聯合會から脱退するに至つた。

モスクワは見事にかゝる運動を利用して世界の輿論を反ファシズム、反日獨伊に導くことに努力し、自分はいゝ顔をしてデモクラシーの影にかくれようとしてゐる。然し此工作は露骨になればなる程平和運動の方面にも之が危険を感得する分子も出て来るやうになつた。

英國の國際聯盟協會は百萬人の會員を有する一大勢力であるが、創立以來の書記長は本年夏に至つて辭表を理事長に提出した。現在の理事長は滿洲事變當時の調査委員ロード・リットンである。右書記長の考では英國の協會が政治的一方的見解の宣傳に利用せられるのは國際聯盟協會の本旨に反すると云ふのである。かくて英國の平和運動もモスコイ工作の影響を受けて分裂してきたのである。

既に赤に取られたる中堅的大衆を取り返すこと、又は少く共赤の手から離させ中立的態度に復歸せしめること、並にこれ以上に中堅分子が赤に取られてしまふことを防止することは國際防共運動の使命の一つではあるまいか。

#### 八、ソ聯治下の反共運動

ソ聯の支配下に在る大露西亞民族以外の諸民族の人口合計は八千萬である。此八千萬の人民を有する諸民族は殆んど例外なく反露であり獨立を希望してゐる。此等の地方に於てはいふまでもなくモスクワ政府の政治が行はれてゐるのであるが、此等諸民族の亡命政府は國外に於て獨立運動を計畫し、反ソ活動をなし機會をねらつてゐるのである。

彼等は反露たると同時に反共である。彼等の運動の重點は反モスクワであるが彼等の運動は實際上防共陣の中に於て重大なる役割を演ずることになる。従つて歐洲及世界に於ける防共勢力として看過し得ざる要素である。

此等諸民族中主なるもの名稱並に其ソ聯内人口を列記せば左記の通りである。ウクライナ(三千八百萬)、トルキスタン(千八百萬)、アゼルバイジャン(四百萬)、ジョルジャ(三百萬強)、北コーカサス(二百萬強)、コザツク(八百萬)、イテル・ウラル(七百萬)その他カレル、クレメー、ドン、イングリ、コミ、クバン等の六民族の名を加へることが出来る。人種の系統からいへばウクライナ民族はスラヴ人、トルキスタン民族はモンゴリヤ人、アゼルバイジャン民族はタタール人、ジョルジャ民族はコーカサス人、北コーカサス民族はコーカサン人、コザツク民族はスラヴ人及びモンゴリヤ人、イデル・ウラル民族はモンゴリヤ人である。ウクライナ、アゼルバイジャン、ジョルジャ、北コーカサス、コザツク等は一九一八年に獨立宣言をしたが一九二〇年にモスコに征服されてしまつたのである。一九一八年に獨立宣言した時に北コーカサス、ジョルジャ、アゼルバイジャン、アルメニヤの四民族は「コーカサス民族聯合」を組織した。此等の政府は一九二〇年にボルシェヴィズムのために國外に逐はれたのである。そこで北コーカサス、ジョルジャ、アゼルバイジャン、ウクライナ、トルキスタンの五民族亡命政府は巴里に於て相會し「コーカサス、トルキスタン、ウクライナ諸民族親善委員會」といふ名稱の下に亡命政府聯合を組織し今日まで獨立運動を續けて來たのである。

此五民族聯合は機關紙として「プロメテ」といふ雜誌を發行してゐる。此雜誌を中心として「プロメテ委員會」なるものが組織され、五民族政府は此委員會の名に於ても對外宣傳に努力してゐる。又五民族聯合の名を以て機會に應

歐洲に於ける防共

一三三

じて意見書を作成し世界の各方面に配付してゐる。特に毎年國際聯盟總會の際には意見書を總會議長に提出し、各國代表、各國新聞に之を配付して居り、ソ聯を弾劾すべきことを世間に説いてゐる。此等意見書は各亡命政府代表に依つて署名され、此等代表は壽府に來て數日間暗中飛躍するのである。

五民族亡命政府聯合の議長は交代制である。一九三六年には當時のウクライナ外相シュルギン氏であつたが一九三七年及三八年はデョルジャの前外相チエンチリ氏である。

ソ聯被征服諸民族中最も重要なものはウクライナである。人口は此等諸民族合計の半數を占めてゐる。又波蘭領内にも六百萬のウクライナ人が居住し、ルーマニヤには百萬、チエツコには五十萬、巴里にも數萬を數へる。故にソ聯外在住のウクライナ人の間に黨派の分裂反目あるは當然であつて、我こそはウクライナを代表する政府であると名乗るものが一つでない。上述の五民族聯合は巴里に在るが之に加盟せるウクライナ亡命政府は、民主共和政府と稱するものであつて、此の他に一種の王黨とも觀るべき勢力が我こそはウクライナの實力であるといつて此の民主共和政府に對抗しつゝ活動してゐる。其他小さいながらも對立してゐる黨派が三つある。

此の中で社會民主黨はブラーグに中心を置くものであり、在巴里に中心を置くところの上述の共和民主政府から觀れば其の社會民主黨員十數名の組織する極めて小さい勢力である。又社會革命黨といふのもブラーグに中心を置くもので、在巴里の民主共和政府にはせれば黨員十數名に過ぎぬ小勢力で寧ろ親露派ださうである。此の派はチエツコ人の支持を受けてゐる由である。

問題となるのは民主共和政府の他には上記の一種の王黨派及びコノヴァレツ派である。以下ウクライナの右三勢力

の組織の内部及相互關係をさぐり、ジョルジャヤ亡命政府の組織、ウクライナ及びジョルジャヤ兩亡命政府の對佛對獨關係等に關して聞き及んだ點を略報したいと思ふ。

### 九、ウクライナの獨立運動

世界大戰末期ツァー政權の崩壞に乗じて一九一七年ウクライナ獨立政府として民主共和政府が成立した。首領はベトラル氏であつた。然るに一九一八年二月ポリシエヴィキーはこの政府を追出してしまつた。當時ドイツ軍は東に進みウクライナに入つて、ウクライナのスコロバツキ將軍に力を藉しポリシエヴィキーを驅逐し「ヘットマン」政權を宣言せしめた。「ヘットマン」とはウクライナの歴史において王に似たる權限を有する支那者である。このスコロバツキのヘットマン政權は七ヶ月にして上記の民主共和黨に敗北し、民主共和政府も一九二〇年ポリシエヴィズムに叩かれて國外に逃出し、今日まで亡命政府として國外において獨立運動を繼續してゐるのである。

右の如く世界大戰後ウクライナは將に獨立せんとして力及ばずモスクワに征服されその時に獨立政府建設を試みた二勢力は國外に逃れて活動を續けてゐる。従つてこの二勢力は今日に至るまで妥協し得ず相互に他を非難してゐるのである。右二勢力の外にコノヴァレツ大佐の活動がある、その他二つの小黨が何れも別個に獨立運動をやつてゐる。即ち合計五派が我こそはウクライナの勢力なりと稱してゐるのであるが、實際問題となれば上記の民主共和政府派とスコロバツキ將軍派とである。

この二つの中でも民主共和政府がその組織及び活動においてウクライナ避難民の大部分を味方としてゐるものと見  
歐洲に於ける防共

ることが出来るであらう。民主共和政府の總統ペトラはパリにおいて一九二六年に暗殺された。同政府の内規上首相たりしアンドレ・リヴィツキが自動的に總統の地位についた。この政府は五人の大臣より成り首相兼外相はプロコポヴィツチでパリに住み、陸軍大臣はザルスキ將軍、宣傳及び教育大臣はスマル・ストツキ氏でソヴィツキと共にポーランドのワルソーに住んでゐる。また内務兼大藏大臣はヤコヴリヅ氏でチエツコのプラーグに住んでゐる。パリに於ける「コーカサス及ウクライナ、トルキスタン民族聯合」においては在パリの首相兼外相たるプロコポヴィツチがこの政府を代表してゐる。

この亡命政府は民主共和といふけれども、これは單に世界大戰直後の名稱をそのまま續けたに過ぎずして、實際は國民主義の革命運動である。彼等の目的はウクライナをソ聯より分離せしめるにある。獨立達成後の政態を如何にするべきかはその時に適した政治組織を實施すればいゝのであつて、今日よりこれを決定するの必要はなく、また政府の名が民主共和だからといつて吾人を國民主義反對者なりと定義するは誤解もまた甚しきものなりと説明してゐる。

民主共和亡命政府はウクライナ避難民合計の八割をその避難民組織に網羅してゐるといつてゐる。即ちパリにはこの政府の下にウクライナ避難民最高委員會が設置されてをり、この委員會の會長は前外務大臣シユルギン氏である。この最高委員會の下に各國に地方委員會が組織されてゐる。そのうちの主なるものはポーランド、ルーマニア、フランス、チエツコ、ベルギー、ハンガリー、ユーゴスラヴィア、トルコ、ルクセンブルグなどであり、支那にも存在してゐた。またウクライナ民主共和政治軍の舊戰鬥員團體聯盟も中央と地方とに組織せられ、中央においては陸軍大臣ザルスキが團長であり、地方團體としてはポーランド、フランス、ルーマニア、チエツコ、ベルギー、ドイツ、

カナダなどにおける團體を擧げることが出来る。

またこの政府には將軍參謀本部もある。參謀本部長は在ワルソのウクライナ將軍である。更に二つの重要な委員會が組織されてをる。一は法律委員會、他は經濟委員會で一度獨立が成功した場合において、新秩序の下に社會を立直す際に實情に即した施設をせねばならぬので、これがため現在ソ聯政治下のウクライナ國內に於ける經濟狀態を詳細に研究しておくといふのである、この二委員會は上記の内務大臣ヤコヴリツ監督下に調査を行つてゐる。

亡命政府の活動はこれを三方面より觀察し得る。第一は避難民間に於ける團結運動である。即ち避難民をして獨立運動を忘れしめず、その勢力を自分の方に牽きつけおくこと。第二は外國に對する宣傳である。即ち獨立運動の存在、ソ聯が如何に不正にウクライナを征服支配してをるかを絶えず宣傳しておくこと。第三はウクライナ國內との連絡および國內分子の活動である。右避難民に對する機關紙としてウクライナ語にて發行のもの（一）パリ發行の週刊紙トリツプ（二）ポーランドにて發行の軍事研究月刊雜誌タボル（三）ポーランド東ガリシヤにて發行の月二回紙ドニプロ、その他ポーランド、フランス、チエッコなどにて發行の不定期刊行物を算へることが出来る、またフランス語においては民主共和政府情報部發行の情報紙がある。更にウクライナ青年國民派は數種の機關雜誌を發行してゐる。亡命政府は對外宣傳に力を入れるのは當然であつて、それが如何に不正にウクライナを支配統治するかにつき諸國の認識を高めるに全力を盡してゐる。首相兼外相並に宣傳教育大臣の仕事の重要な部分はこの對外宣傳であるが、現在の總統たるリヴィツキの息子はジュネーヴに居住して同地に於て國際的宣傳に努力してゐる。國際聯盟を中心として世界の視線が集まり、各國代表、各國新聞記者、その他多數の國際諸機關諸聯合會の存在するジュネーヴを中心として活

歐洲に於ける防共

一三七

1385



動してゐる。九月の國際聯盟總會の際には總議長に對して宣言書を提出してゐる。その他多くの國際會議の機會を利用してゐるわけであり、又政治的意義を有する諸國際聯合に加盟し、これを宣傳の機關に利用してゐる。滿洲事變及び支那事變に際しては國際聯合會の會議において日本側の立場に應援しこれを機會に反ソの氣勢を擧げ、又ソ聯の國際聯盟加入問題の際には、特別出版物を發行してソ聯を聯盟に加入せしめることの誤れるを説いてゐた。

民主共和政府に對抗するスコロバツキ將軍の一派はポーランド親善方針においては前者と同一の政策に立つが、前者に云はすれば反露の性質に乏しい。民主共和派は反ソ反共たると同時に徹底的に反露である。反露ならざるものとは妥協出來ないのである。故に民主共和派はこの點について他に對して頗る厳しい批判をなす。即ちスコロバツキをヘツドマンとする計畫は實は露國皇黨派の術策に過ぎない。換言せば露國皇統派はスコロバツキをウクライナのヘッドマンとして、これを露國の保護領にせんとしてゐるのである、米國およびカナダにスコロバツキ派のものは居住してゐるが彼等の多くは新黨派である。

スコロバツキ派は軍事方面の準備が進んでゐることを得意になつて吹聴してゐる、米國においては飛行機三臺を有し、百人のウクライナ飛行士を養成してゐると。又機關紙はベルリン、シカゴ、トロント、ヴェノスアイレス及びパリ等にて發行してゐるこの派を支持する日刊新聞十五となり、この派の勢力は過去三年以來大いに増大せりと云つてゐる。

スコロバツキ將軍は今日六十五歳で、その息子は昨年米國及びカナダを旅行し、同地方の同派團體は熱烈な歡迎振りを示してゐた。そしてその議會に撮影した寫眞を機關新聞にのせてウクライナ人の間及び對外的宣傳に利用してゐた。

次にコノヴァレツ大佐の指揮する黨派について一言せば、前述の如くコノヴァレツはウクライナ人の居住する地方全體を打つて一丸としてウクライナ國を建設せんとする旗を立ててゐる。ウクライナ人はポーランド内に六百萬人、ルーマニア内に百萬、チェッコ内に五十萬居住してゐる。ポーランド内のウクライナ人の居住せる地方をウクライナに併合せんとすることは反ポーランド政策となるのは當然であつて、コノヴァレツはポーランドのウクライナ人の或る程度の反ポーランド感情を唆つて反ポーランド運動を促してゐる。屢々ポーランド内においてテロ行爲を行つたのである。ソ聯はコノヴァレツのこの態度を以て自己に有利なるものとして寧ろこれを歓迎してゐた、然るに本年五月廿三日コノヴァレツはオランダのロッテルダムにおいて暗殺された。即ち自分の信頼せる人間から飛行機に乗る小包に爆彈が仕掛けてあつたので、彼は木ツ葉微塵になつて即死を遂げたのである。同日丁度ウインから飛行機に乗つて飛んで来てロッテルダムに到着したバラノフスキーといふ小男も到着と同時に逮捕された。彼がオランダ新聞に對し發表したところによれば、爆彈の小包をコノヴァレツに渡した男はワルクといふ人間で、彼はコノヴァレツの腹心の手下であつたが最近モスコの犬になつてゐたのだといふことである。然らばモスコは何故コノヴァレツを片付けやうとしたのか？これに關し民主共和政府側の觀察によれば、當初反ソの活動をしなかつたところのコノヴァレツは一九三三年のウクライナ大飢饉以來反ソの態度を執つてモスコの邪魔になつたからである。この外に存立するウクライナ獨立運動の小さい黨派は前述の如く二つであるが、一は社會民主黨であり二は社會革命黨である。前者の首領はチェッコのプラーグにあり、第二インターナショナルに屬してゐる、舊黨員十數名の小勢力である。また後者の首領もプラーグに住居し、同じく小勢力で親露系と見なされて露國の社國黨と連絡してゐる由である。

歐洲に於ける防共

### 一〇、ジョルジャの獨立運動

ジョルジャは世界大戰末期大露西亞の崩壞に乗じて立つた民族中最も獨立政府の形を備へた民族である。一九一八年に獨立政府が組織せられ、聯合國側に依つて獨立を認められ、國際聯盟加盟の候補にさへ立つたものである。それが實現される前にモスクワは兵を進めて之を征服してしまつたのである。

亡命政府は巴里に本據を置いた。國內に於て成立した獨立政府の總統ネオ・ジョルグニアは今日七十歳を越してゐる。内務大臣ラミシヴィリは一九三〇年暗殺された。外務大臣はゲゲテュコリ、大藏大臣はカンチラキである。亡命前の諸政黨の議員約四十名は今日も尙巴里に於てジョルグニア政府の下に集まつて時々小議會を開いてゐる。

國外在住のジョルジャ人は合計五千人、其中半数は巴里に在り残りはポーランド、ルーマニヤ、ドイツ、チェッコに散在してゐる。亡命政府は巴里に於て機關紙「獨立ジョルジャ」を發行し、五民族亡命政府聯合の活動及び其機關雜誌「プロメテ」に積極的に協力してゐる。即ちジョルジャ政府はウクライナの民主共和政府と完全に協力し、スコロバツキ派とは連絡してゐない。又親ポーランド政策である。

ジョルジャは避難民間に於てはウクライナの如く分裂反目なく、従つて亡命政府の活動は對外宣傳及び國內との連絡に集中されてゐる。對外宣傳の係りは在ジュネーヴのシャヴィシヴィリ氏の擔任である。彼はジョルジャ國國際聯盟協會國際聯合會の會議にも出席しジュネーヴに在つて各方面との連絡に當り、眞に革命の志士とし、母國の爲めに身命を賭して活動してゐる。

彼も國を追はれて百難を排して巴里にまでたどりついた國士の一人である。ポリシエヴィズム革命の際に其妻は發狂し、彼は狂へる妻と赤兒とをつれて食ふものも食はずに山を越え野をさまよつたのである。故に彼等の一黨は意思堅固の闘士揃ひであつて、いつかは來る獨立の日を唯一の目的として邁進してゐるのである。

世界大戰後ドイツが左傾し、親ソの色彩濃厚であつた頃、フランスは巴里にジョルジャ公使館の設置を促した。即ちジョルジャの在佛公使館はフランスの招きに應じて設置せられたもので、フランスとしては特別の關係に立つたのである。然るに佛ソ條約成立して、フランスは對ソの義理上在佛ジョルジャ公使館を廢止したのである。故にフランス政府はジョルジャに對する義理として爾來巴里にジョルジャ事務所の設置に協力し、ジョルジャ人の旅券を交付する場合には先づ此事務所をして證明せしむることにしてゐる。舊ジョルジャ公使はアカキ・チエンケリ氏であつて、巴里に在つてジョルジャ政府の主たる力となつて活動してゐる。彼はジョルジャ舊外務大臣であり、コーカサス地方に於ける最も知名の政治家である。

ジョルジャ亡命政府と獨逸との關係はどうであるか。ラツパロ條約によつて獨逸は伯林にジョルジャ公使館設置を認めた。後に至つてドイツの社會黨のヒルフェディングは、自分が駐ソ大使にならんとする野心からモスコーに好意を示す意味にて在獨ジョルジャ公使館を廢止せしめた。爾來ドイツとジョルジャ亡命政府との關係は斷えてゐたが、本年春よりジョルジャは新獨逸接近工作に努力し、ドイツ側もジョルジャとの協力方針に乗り出し、伯林にジョルジャ事務所が設置されるに至つた。

此ジョルジャ政府も獨立運動を弱さんとするモスコーの工作になやまされる場合もあるやうである。

反ソの外観を呈しつゝ實はモスコイの手である如く思はれる出版物などが現はれ、表面に於ては嚴密なる調査などが行はれてゐる。

一四二

#### 一一、獨逸の對ウクライナ關係

世界大戰後ドイツが親ソ反ポーランドの立場に在つた間に、ウクライナの反ソ親ポーランド派たる民主共和政府が親ポーランドのフランスに其中心を置いてゐたのは當然である。又此の派はスコロバツキ派の敵であり、スコロバツキが獨逸の軍部と結んでゐた關係上から見ても民主共和亡命政府が獨逸に接近し得ず、巴里に勢力を植ゑたのは止むを得なかつたのである。従つて民主共和派はドイツから見れば親佛派であつた。特に外務大臣シュルギン氏は佛國系の學者として知られてゐた。新獨逸が防共反ソの旗印の下に出現したのを見てウクライナ民主共和亡命政府は、獨逸と協力し其援助を受くることを絶対に必要と感じ、極力其方法を研究し出した。時も時、外務大臣シュルギン氏の失敗があつた。即ちエチオピア問題に關して國際聯盟協會聯合會に於て反伊決議が提出された場合に、シュルギン氏はウクライナの國際聯盟協會代表として不注意にも此決議案に賛成の票を投じてしまつたのである。従つてウクライナ亡命政府内部に於ては同氏が外務大臣の地位を辭することを必要とし、プロコポヴィツチ氏が外相の席を繼いだのである。スペインの内亂、日獨防共協定、日獨伊防共協定の出現は急速度にウクライナ亡命政府を刺戟し、敢然としてドイツ接近の工作を進め本年春より此工作は相當の成績を來し、ドイツ側もウクライナの民主共和亡命政府と連絡するに至つた。さてドイツはウクライナをどう思つてゐる。どの程度でウクライナに進出せんと考へてゐるのか。之をソ聯より分

1390

離獨立せしめ、外形上は獨立國家たらしめ實質に於て經濟的特權を確保せんとするか、その程度に於けるドイツの優先權はウクライナ獨立運動者に於ても甘受するところではなからうか、ドイツは果して徹底的反露の純ウクライナ分子と提携せんとするか。それとも或は反露にあらざる分子を利用せんとするか。何れにしても民主共和派とスコロバツキ派とは目下獨逸をめぐつて大に暗中活躍してゐることであらう。

ウクライナ問題を觀察する場合に白露系と云ふことと反露民族の立場とを區別することが必要である。ウクライナ、ジョルジア其他のソ聯下被壓迫民族の革命運動は絶対に反露即ち他民族を除外したる純ロシア民族の支配に反對、即ち反露であり、白露系とは單に共產黨政府に反對であつて被壓迫民族の獨立運動には同情なく、寧ろ之に反對であり、大ロシアを此まゝ存続せしめて赤の政府を倒さんとするのである。故にウクライナの民族獨立運動から見れば白露系の露人はモスクワ政府が大露西亞を實現した今日の狀態を維持せんとする希望強く、共產政府を倒すことにより大ロシアが崩壊するならば、寧ろ共產主義を倒すのを待つて大ロシアを此まゝかためる方を選ばうと思つてゐると云ふのである。民族獨立運動の連中は反モスクワ活動に於ても絶対に白系露人と共同しないのである。彼等は大ロシアを分裂しその大勢力を分散するのであるから、百パーセントに日本の立場と一致するのであると云つて日本に對し絶対の好意を示してゐる。

ウクライナ民主共和政府は伊太利政府とは相當密接なる協力關係に立つてゐる。

#### 一二、ジュネーヴに於ける反共反ソの勢力

歐洲に於ける防共

反第三インターナショナル國際聯合がジュネーヴに在ることは既に述べた通りである。國際問題を取扱ふ新聞としてスイスに於て同時に國際的に相當認められてゐる新聞たるジュルナル・ド・ジュネーヴは數年以來絶對的に反共反ソの社説を掲げてゐる。又上述の如く、ウクライナ及びジョルジャ亡命政府の宣傳代表者が活動してゐる。昨年よりも防共陣に味方の電報通信社が設立せられ、毎日二回通信紙を發行してゐる。其他獨伊もジュネーヴに於ける宣傳機關充實に相當力を入れてゐる。ウクライナ系の通信社も活動してゐる。ジュネーヴは國際聯盟式の空氣のみの國際市場ではなく、之に對抗し、日獨伊側の立場を國際的に宣傳する闘場ともなつてゐる。

赤い方の宣傳機關としては共產黨系の「勞働」と云ふ新聞が百パーセントにモスコウを代辯してゐる他に、ジュネール・デ・ナシオンと云ふ他國人經營の反日獨伊の新聞がある。此新聞は滿洲事變當時は寧ろ日本の味方であつたが、今日はずつかり人民戦線系の具となつてゐる。支那は「世界」と云ふ通信社を置き宣傳に苦心してゐる他、今日もなほ支那國際圖書館を經營して相當の活動力を示してゐる。

右の如くジュネーヴは各國の外交宣傳、防共陣對赤色陣宣傳場として中々面白い場所である。防共陣は世界的に進みつつあるが赤色防禦陣の固めも堅く機会さへあれば反撃を試みんと準備をしてゐるのであるから、日獨伊の防共工作は單に國內的に限られず、國際的諸要素に侵入することを忘れず、又他國に於ける防共運動促進に力を藉すの覺悟が必要であらう。(本編は稻垣守克氏の執筆に係る論文の要旨である。)